

令和5年度西宮市協働事業提案審査会(1日目) 会議録(要約)

日 時：令和5年5月8日(月)9時00分から13時20分

場 所：西宮市役所第二庁舎6階 B602会議室

出席者：【委員】伊丹 康二(会長)、西明 直子(副会長)、森下 こずえ、猪坂 幸司、桃谷 修司

【事務局】市民協働推進課 課長 中尾 篤也、係長 武光 真一、主査 黒木 千聖

〈第1部 プレゼンテーション〉公開

○開会

市民協働推進課長より挨拶。

◇事務局

1 提案につき13分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約3分、委員からの質疑に約10分。会長進行で開始。

1 番目の事業「ホームページによる防災意識の継続的な啓蒙」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体(中浜・堀切町自治会)から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・ これまでも、地道にしっかりと非常にいい活動をされていると思う。
- ・ 提案書には、今回ホームページを作成する理由の一つとして、「通常の情報伝達手段ではカバーできない層」という記載がある。普段あまり在宅でない方を指すと思われるが、通常の見ただけでは伝わらないということか。それとも、自治会の活動が全く響かない層がいると感じているのか。
- ・ ホームページの作成・啓蒙によって浸透したかが重要である。ホームページのアクセス数を管理していけば、浸透の度合いがある程度見える化されると思うが、そのような部分についてもフォローしていく予定はあるか。

◇提案団体

- ・ 回覧について皆さんに聞いたところ、多くの方々が回覧に判を押すだけで次に回すということだった。意識されているのは高齢の方や役員の方で、あまり見ないのは若い世代だと思われる。自治会内には101名の子供がおり、その家庭に向けたアピールが非常に重要になってくる。今回のホームページ作成においては、子ども会の方々の巻き込み方が一つのポイントになると思う。作成段階から相談し、どのようにすれば見る機会ができるかヒントをもらいながら、巻き込む形でホームページを作成し、また、作成後も、防災への意識についてどのような情報が必要か聞きながら進めていきたい。
- ・ フォローについても重要と考えており、約1年経過後にアンケートを実施する予定。また、それだけでは十分な情報を得られないため、様々な層ごとに情報を収集したい。例えば、高齢の方々に対しては、いきいき体操をしているシニアグループに意見を聞いたり、若年層に対しては、子ども会

を通じてフォローをしたりと、複数の手段を考えながら全体像を捉えていきたい。

○委員

- ・ホームページの作成にあたり、勉強会の実施を予定されているが、普段から自治会活動に積極的に参加されている方々を対象とするのか。

◇提案団体

- ・初めに、この活動の一番の核になる自治会の役員に徹底してホームページの意味や意義、使い方等を伝え、それが一つのオピニオンリーダーとなって、じわじわと他の方にも伝わっていくというような進め方をしたい。先ほどの話と重複するが、様々な層の方々にPRを徹底していくことが、活動が成功したかのキーになるような気がしている。

○委員

- ・なぜホームページという手段を選ばれたのか。昨今、いわゆるSNSなど様々な情報を伝える手段がある中で、ホームページはどちらかと言うと「待ち」の方法であり、まずホームページを見に行くという動機づけや存在を教えなければ辿り着くことができない。一方で、例えばLINE等は、送り手側からメッセージを発信するため、見たくないと思っても登録していればメッセージが勝手に届く。様々な方法がある中で、色々と検討された上でホームページを作成することになったのか。

◇提案団体

- ・どのような手段を取るかについては考えた。例えばYouTubeを始め、個人的に会長のメッセージをお知らせする方法も考えられる。おっしゃるようにホームページは見る側に興味がなければアクセスされない。ここが一つのキーになるが、何をもって興味を持つか考えたときに、特に防災のテーマに興味を持ってアクセスする人はいないと思う。そのため、ホームページは防災中心ではなく、層ごとに興味があるテーマ、例えば高齢層に対しては地域のアミューズメントの活動や映画鑑賞会などに関する掲示板を設け、アクセスしたときに、最初の画面に大きく「防災ニュース」等が掲載されている形を考えている。
- ・子ども会ではLINEで連絡を取り合っているようだが、ホームページを使ってもらえるようになれば、防災情報がトップページの一面に出るような形にしたい。これが完璧な形ではなく、自治会への情報提供の手段は他にもあるため、新たな手段も考えながら進めたい。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

2番目の事業「子育て世代を対象にしたイベントと地域課題/ニーズ調査ー子育てしやすい街、甲子園口を目指してー」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（甲子園口地区まちづくり協議会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・市内では数少ない、人が増えていくまちなので、より活性化してもらいたい。
- ・アンケートの取り方について、提案書には「イベント参加者を対象にアンケートを実施」との記載があるが、イベントに参加しない人の意見も聞き、より活力のあるものにしてほしい。先ほど説明のあった地域の幼稚園や保育所等にも、地域の活性化という名目のもと、幅広くアンケートに協力

いただくことは考えているか。

- ・質問の仕方にもよるが、アンケートを取ると、当然してもらえないものだと捉えられることがある。これはアンケートの怖さでもあり、不満が残る可能性がある。例えば、自分たちで解決できることもあれば、少し幅を広げて商店街や地域、市にも協力してもらわなければならないこともあると思うので、予めそのような協力体制をしっかりと作った上で、どのような意見に対してもある程度答えられるようにしてもらえればと思う。

◇提案団体

- ・地域に根付いた多様な声を聞くことができるよう、商店街自体はホームページを持っている。自治会と連携し、色々なところから誘導できるようなものとしてホームページを作っていきたい。
- ・アンケートでは、声の大きい人や言った人だけではなく、様々な方の意見を聞きたい。
- ・地域のイベントには、自治会や青愛協、PTA等多くの方を巻き込み、新しい方も参加されている。幅広い世代に参加してもらうためには、回覧板だけでは難しいため、ホームページの閲覧を促し、地域のイベント実施時にアンケートを実施し、それに対するレスポンスを返しながらか、できることとできないことを判断して進めていきたいと思う。

○委員

- ・これまでの活動の経験から、今回のイベント実施により、どのくらいの人が集まり、そこからどのくらいのデータが集まりそうか想像できるか。

◇提案団体

- ・小・中学校に依頼して募集し、回答を得た後にアンケートを実施している。商店街と一緒に実施したときは、ホームページからアンケートに回答してもらったり、メールで良かった点や改善点などの意見をもらったりした。
- ・ほんわか商店街のお祭りには、例年1万人から2万人の参加者がある。商店街にイベントブースを設けることにより、幅広い方からアンケートが集まると期待している。アンケート用紙だけでなく、ホームページにもアクセスしてもらえよう、重ねて周知する。また、その場でアンケートに回答した方には、地域の人が作ったお土産を配ることも考えている。

○委員

- ・今回の企画は、イベント開催とアンケート実施が組み合わさっているが、主に、地域の子育て世代の方々のニーズや課題を理解したいということか。シンプルに、アンケートのためにイベントをする必要性がどこにあるのかと思う。

◇提案団体

- ・アンケートだけを配ると、あまり返ってこない。子育てカフェのイベントについては、この事業への応募に関わらず実施する予定だった。イベントをする主な目的は、何が地域に足りないのか、何をしてほしいのか、どうすれば地域を活性化するために協力していただけるのかというところを引き出すために、日頃の活動に参加してくださる方々だけではなく、何もないところにちらっと来た方から意見を聞きたいというところ。
- ・地域活動を長く続けてこられた方は、イベントもたくさん知っているが、そうではなく、甲子園口で育ち、現在子育て中で、甲子園口が大好きだけれども何をすればいいかわからないという人をもっと拾い上げたいという思いがある。今回、地域の若い人たちが参画してくれたことも後押しとなり、この事業を提案させていただいた。

○副会長

- ・面白い企画だと思う。アンケートはもちろん、実際に子供たちを巻き込んだイベントを実施し、体験できることは、ワクワク感があり、子供たちも楽しめると思う。
- ・昨年度実施されたベンチ制作のワークショップについても、できる・できないは別として、子供たちの案を具体的に落とし込み、実際に行動にできているというのはとてもいいことだと思う。

○会長

- ・イベントをしながら住民の声を聞くという内容だが、その中でプレイヤー側の人を発掘していくこともできると思う。声を聞くだけではなく、その先の展望として、計画や思惑のようなものはあるか。

◇提案団体

- ・飲食店を経営しており、昼間の仕込みの時間帯に、イベントの参加者等から色々なお声をお聞きしている。自治会の方やこれまで活動されてきた方にも相談し、皆さんと打ち合わせをして、試行錯誤しながら進めている。
- ・それぞれの地域団体でも、アクティブシニアという呼び方はするが、本当に高齢化が進んでおり、できれば次のイベントの際には若い世代に来てもらいたい。最終的には、今の20代~50代の人たちに動いてもらうことが地域力の向上だと考えており、そのためにも、まずは子育て世代に地域は楽しいと思ってもらい、楽しかったから次は何かしてみようと思うようなところを発掘していきたい。それが今後の展望になっていくと思う。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

3番目の事業『環境学習都市宣言』20周年 夙川公園の歴史と環境から学ぶ西宮の未来』について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（香櫨園コミュニティ協議会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・貴重な自然を普段から守っていただきありがとうございます。
- ・昨年の提案時に、参加者の年齢層が高いため、情報発信に課題がある旨の記載をされていた。それに対し、地域の大学に呼びかけ、若い学生の知恵を借りることを予定されていたが、実現されたか。
- ・今回の活動の中心として、ホームページ作成が含まれているが、収支予算書にはホームページ関連の支出が全くない。ホームページの作成にはそれなりの費用がかかると思われるが、支出予算が組まれてないのはなぜか。

◇提案団体

- ・大学生の力を借りることについて、昨年度、大学の担当に相談したが、学生だけでなく先生にも関わっていただく必要があり、費用面の問題が発生したため、残念ながら実現できなかった。
- ・ホームページの作成について、最近では、ほとんど費用のかからない方法があると聞いている。ランニングコストがかかる場合、香櫨園団体連絡協議会と協力しながら、ホームページを作成し、夙川や西宮のブランドをアピールしていきたい。
- ・最近では、若い人が集まって何かをされると尻込みされる人もいるため、ホームページを作り、

色々な情報を発信していきたい。

○委員

- ・これまで2年間事業提案をされているが、助成を受けて事業を実施する中で、どのような効果を得たと感じているか。今年度でこの事業の提案は終了となるが、今後につなげられるものは得られたか。もしくは3年目で得られる見込みはあるか。

◇提案団体

- ・効果として、今年の初めに、夙川オアシスロード 50 周年の記念誌を 200 部発行し、現在、小・中学校や商業施設等に配布している。また、記念事業の実施を通じて、これまでオアシスロードを知らなかった方にも広くアピールできたと思う。新聞社にも取り上げてもらい、記事にいただいた。
- ・今後につながるものとしては、東西に長い夙川公園を土台にし、上流域・下流域も一緒にお祭りをしていきたいと考えている。私たちだけで決めるわけにいかないが、流域の人も一緒に、毎年できるようなイベントをみんなで考えていきたい。
- ・地域では、オアシスロードを利用し、この2年間でウォーキング等を実施してきた。その中で、わんわんパレードというものは、おそらく日本で初めてではないかと思う。約 50 組が参加し、国道2号から浜まで犬と一緒にパレードをしてもらった。犬は人間に最も近い動物であり、高齢化社会では癒しのために飼っている人が多く、たくさんの方が参加された。また、参加者の中から、パレードだけではなく、募金活動の提案を受け、昨年度はわずかだが福祉団体に寄付を行うことができた。これから長く継続できるような事業を探し出したい。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

4 番目の事業「自治会活動の活性化をめざして」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（深津自治会推進委員会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・自治会の理想的な活動をされていると思う。どの自治会も苦勞している中、新規会員が増えるなど、毎年確実に進めておられ、素晴らしいと思う。そこまでされていても、提案書には、少なからず必要性に疑問を持つ方々がいるという記載がある。700 名の住民がいる中で、まだなかなか浸透していない層の比率についてどのように捉えているか。

◇提案団体

- ・住民は増えたが、西宮北口駅前のエリアのため、ワンルームマンションが多く、ここを開発するのは難しいということから、一軒家や家族が住んでいるマンションを対象として活動している。提案書に記載したとおり、自治会は必要なのかという発言もまだまだ聞いている。一方で、イベントの案内をすると、参加される方もおり、さらに、自治会員になってみようかという方もいる。

○委員

- ・今年はホームページではなく LINE を立ち上げるとのことだが、使い方としては、LINE を通じてイベントの申込受付をされるということか。

◇提案団体

- ・自治会員の場合、ブロックごとに置いている幹事に申し込んでもらう形を取っている。この2年間は、電話やメールで受付もしていたが、ぎりぎりの申込に対応できないという経験があった。お母さんたちがLINEをしていることはこの2年で把握できているため、申込等もスムーズに行くのではないかということから、今年はLINEを完成させたいと考えている。

○副会長

- ・大学生を巻き込み、子供たちの国際交流の場を作っていくことを企画されているが、具体的にどのような方法を考えているか。

◇提案団体

- ・大きい言葉で書いたが、地域に住む外国人の方に依頼し、日本で仕事をしている姿を子供たちに見てもらいたいという思いから、国際交流をテーマとした。

○委員

- ・事業目的として、「自治会に興味を持ち、自治会活動に参加してくれる住民を増やす」という記載があるが、どのようなことを目指しているのか。

◇提案団体

- ・自治会員が増えないことには、役員の担い手もないと考えている。役員となると尻込みされるため、ワークショップのような形をしたい。未来づくりパートナー事業としては今年度で最後になるが、私たちとしてはずっと続けていきたいテーマ。2年ごとに役員の改選があり、今年はその年だったが、4月から新しく3名の方に役員になってもらうことができた。
- ・現在は、毎月情報誌を作成し、地域住民600名に配布している。まずは自治会に興味を持ってもらい、次に、自治会員になってもらうという形をとっている。
- ・古いマンションには年齢の高い方が多くいるが、子供向けのイベントをすると参加してもらいにくいので、近所に孫が住んでいる方には一緒に参加してもらえるようにしている。そうすると、3世代一緒に来てもらうことができる。
- ・今後も自治会が続くようにという思いで活動しており、ずっと進めていきたいと考えている。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

5番目の事業「自治会員の防災意識向上事業」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（昭和園自治会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・防災マニュアルを作成されているが、1,300世帯5,800名と人が多い地域ということに関して、特徴的なマニュアルを作られているのか。

◇提案団体

- ・昭和園自治会独特のものというふうにはなっていないが、作成に着手はしている。市が出している資料を使ったり、色々なところから資料を持ってきてたりして作っている。あまり分厚いものではなく、皆さんが簡単に読んで、防災について理解してもらえるよう工夫している。

○委員

- ・マニュアルには、安否通知札の利用方法も載せるのか。

◇提案団体

- ・防災試験放送のときに利用しましょうということを載せる。

○委員

- ・それが特徴的かもしれない。

◇提案団体

- ・今は、防災試験放送は「鳴っているな」で終わっているのが皆さんにとって普通の状態。そこで、もう一步踏み込み、玄関に安否通知札をかけた後に行くなどの行動をしてもらおうと、随分意識が変わるのではないかと思っている。

○委員

- ・地域的にマンションが多いと思うが、マンションとの連携はどのように考えているか。

◇提案団体

- ・マンションの住民にも札を配り、ドアノブにかけてもらう。

○委員

- ・管理組合と連携していくということか。

◇提案団体

- ・その通り。

○委員

- ・札を玄関に引っかけることになると思うが、試験放送があったときにかけてくださいという声かけのみで終了となるのか。

◇提案団体

- ・本日お持ちすればよかったが、ドアノブに引っかけるようなものを今のところ考えている。3,300世帯もあれば、当然様々な家があり、かけるドアノブがないということも当然考えられるが、皆さんと相談し、どこにかけるか、みんなから見えるところにかけるかということも予めきちんと考えることも含めて、今回の事業にしたい。

○委員

- ・試験放送の際に、札を掲げている人がどのくらいいるか確認される予定はあるか。

◇提案団体

- ・実施した結果、どのくらい札をかけているかについては、あとで調査し、皆さんにご報告しようと考えている。
- ・私も6年近く自治会長をしているが、防災が一番難しい。マンションであれば、マンション内の火災訓練があるが、1,300世帯に防災とって何をすればいいかが本当にわからなかった。ところが、最近になって新しくできたマンションに防災士の方が入ってきたことと、さらに新しく若い方が資格を取ったことで、防災士2名体制になったため、色々してみようということで、やっと始めることができた。
- ・札をずっとかけっ放しでもいいけないので、例えば30分経ったら外してくださいということも含めて皆さんに周知していこうと思っている。

○副会長

- ・「7日間で自助を乗り切る方法の周知を図る」との記載があるが、防災マニュアルに記載するという

ことか。

◇提案団体

- ・皆さんに配る防災マニュアルに記載することになる。

○副会長

- ・具体的にどのような方法があるか。

◇提案団体

- ・例えば、食糧の備蓄等は市の防災ガイドブックにも載っているが、なかなか読んでいる人が少ないと思う。

○副会長

- ・防災マニュアルに記載して周知するということか。

◇提案団体

- ・その通り。昭和園自治会の組織として、10程度のブロックがあり、それぞれ常任委員を設け、そのもとに地区委員、さらにもう少し細かく地区委員というのを設けている。その地区委員の役割として、自助で、自分の安全を図った上で、地区委員に6～10世帯程度の安否を確認してもらおうと考えている。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

6番目の事業「多胎家庭の子育て支援ウィズコロナ～子どもも親も楽しく過ごせる活動の場～」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（双子みつごサークル cherry）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・他にない取組であり、頑張っていたきたい。
- ・課題として、会場の確保に関することが記載されていた。定期利用枠や減免団体の優先利用の問題があると思うが、これはコロナが落ち着けば解消されるのか。今年もこの会場確保に苦戦されるのではないかと推察するが、それに対してどのように対処されるのか。
- ・移動サポートとは、どのようなことをしているのか。

◇提案団体

- ・昨年度と同様に頑張って探すしかないと考えている。いつも利用している場所だけでなく、他にも広げて探してみたい。また、助成金が得られれば、金額的に他の会場も視野に入れられると思う。
- ・外出のサポートとしては、小さい子供を複数人連れ、荷物も持って移動するのが大変というところが一番の外出困難につながっているため、参加したいけれども会場まで行くのが難しいご家庭がある場合に、スタッフが家や近所まで付き添って移動することを考えている。ママ1人で子供2人を連れてベビーカーで移動する場合、バスにも乗りづらく、タクシーもベビーカーが大きすぎて乗車を断られることもある。車に乗る方は来られるが、車の運転ができず、家も遠い方がどうしても参加を控えてしまうため、そのような方のために、一人が付き添いで一緒に移動し、サポートすることを考えている。

○委員

- ・そのためのスタッフがいるのか。

◇提案団体

- ・スタッフを募集する。助成金が得られれば、スタッフの交通費が支給できる。

○委員

- ・アンケートを拝見すると、市内全域で広報しているようではなさそうだが、どのくらいの地域の範囲で広報しているのか。

◇提案団体

- ・西宮市内で活動しており、市内と近隣市在住の方が参加されている。

○委員

- ・イベントの開催情報を他市にも発信しているのか。

◇提案団体

- ・他市に公共的に発信はしていないが、当団体のホームページや Instagram、公式 LINE を使って発信しており、それらを見て他市からされる方はこれまでもいらっしまった。

○副会長

- ・写真の活動場所はどこか。

◇提案団体

- ・リトミックは鳴尾中央センター、うんどうあそびは西宮市民交流センター、お外遊びは甲子園口公園、お部屋遊びはコープ北口食彩館の集会室で実施した。

○委員

- ・現在、皆さんの活動でお世話できている方々は、活動範囲の対象者のうち何%程度と予測されるか。

◇提案団体

- ・双子の出生率が全くわからない。住所は西宮市にあっても別の場所にいる人もおり、市としても全体的には把握されてない状況ではある。当団体の登録者数は 70 名ほどだが、年齢が多岐にわたっており、実際にこのような活動に参加できる未就園児の年齢から、今は小・中学生に上がっている方も含まれている。

○会長

- ・1か所でイベントをすると、決まった人しか来ないのではないか。少々大変でも色々なところを回っていくほうが、新しい人が入りやすいと思われるが、これまでの活動で感じた効果はあるか。あるいは、場所を変えても基本的にはいつも決まった人が参加されているのか。

◇提案団体

- ・場所を変えると、近所であれば参加していただける方ももちろんいらっしゃる。
- ・夙川で公園遊びをしたり、施設を予約することが難しい場合は、外の公園で遊んだりしていた。

○委員

- ・今回、コロナ課題解決型で提案された理由として、提案書にはこの先もコロナによる課題が続くと予測される旨の記載があるが、さらに詳しく教えてほしい。

◇提案団体

- ・そもそも外出が困難な方がたくさんいる中、3年間という非常に長い期間、コロナによる規制があったことで、本当に外出ができず、出方がわからなくなってしまっている方がとても多い。そのような方々に、とにかく一歩でも外に出てほしいというのが一番の思い。

○委員

- ・昨年度までのコロナによる規制がある状態と、本日以降のこの活動を実際に行う時期とで、活動の内容を変えられそうというような期待や予想はあるか。

◇提案団体

- ・今回、イベント型の提案をしたが、少し規模を大きくすることができる。また、人数制限もないため、多数が参加可能というお知らせができる。サポートスタッフも人数制限なしにたくさん募集することができ、より参加しやすい環境を作っていけると思う。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

7番目の事業「障がいのある子どもを持つ親がつながる講座」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人ビレッジ）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・非常に有意義な活動をされており、是非応援したい。
- ・昨年度実施された講座の参加者 200 人の内訳を拝見すると、リアル参加者も多いが、オンラインでの参加者も多数いる。コロナの影響で当然外出しにくい状況もある上で、かなりオンラインの比率が高いのが特徴だと思うが、オンラインでも十分に効果が出るように実施されているのか。

◇提案団体

- ・昨年度はコロナのピークの時期にタイミングが重なり、リアルでもグループワークができなかったが、Zoomでもグループ分けができるようになっていたため、今年はリアルでグループワークをする場合は、オンラインでもできると考えている。また、オンラインで1回目に参加した方が、やはりリアルで、会場で聞きたいと来られる方も多くいた。おっしゃる通り、オンラインではリアルよりもその場で話ができる機会は減ってしまうが、実際にこの活動自体につながろうとしてくれる方の最初のきっかけの一つとして、参加しやすいオンラインの手法は必要と感じている。

○委員

- ・おそらく、対象の年齢層が、オンラインがあまり苦にならない層だと思われる。また、親同士のネットワークをつなげていきたいとの記載があるが、このイメージとして、提案団体を通じてなのか、親同士なのか、色々考えられるが、最終的にはどのようなネットワークを理想とされているか。

◇提案団体

- ・当法人としては、最終的には親同士が各自つながるような形をイメージしている。当然その核には私たちがいるべきだとは思いますが、私たちを通して全てをつなげるわけではなく、それぞれがつながるような形ということで、現在は持っていないが、もしかしたら拠点が必要になるかもしれない。色々ヒアリングをしていると、LINEグループの場合、発言する人が偏ることがあるため、なるべくリアルとオンラインはうまくバランスをとらなければいけない。できればリアルでつながれる場所のような形で、私たちはどちらかというと世話役で、それぞれがつながってもらう形を理想としている。

○委員

- ・目標の何%くらいまで到達しているか。

◇提案団体

- ・昨年度に家族の方とつながれたところがスタートだったと思うので、やはりまだ10%~20%のところ。
- ・昨年度、18歳以降の上の層の方々をゲストで呼んだこともあったが、同年代も大事である一方で、先輩たちがいかにその壁を越えてきたかという経験談が大事だということは、アンケートからも非常に感じ取っている。この縦の部分をつなぐということはこれから力を入れたいが、なかなかすぐにつなげられるものではなく、時間がかかるという点からも、やはり10%~20%が到達度かと考えている。

○委員

- ・参加者の掘り起こしについて、基本的には学校を通じてされているのか。

◇提案団体

- ・昨年度は、チラシを市から公民館に配架いただいた。また、当団体としては、各放課後デイにチラシを配布した。偶然、放課後デイの西宮市連絡協議会の会長と知り合う機会があり、チラシが配布される旨を各保護者に周知いただいた。
- ・チラシの二次元コードのログを取ったところ、合計200~300人が読み込んだという結果が出たことから、チラシ自体は相当数お手元に届いたと思う。
- ・私の子供の出身校にも、父兄へのチラシ配布に協力いただいた。

○委員

- ・障害福祉施設に関わっていた者として、サービスが必要と思われる人たちが潜在的に多くいる中で、例えば、クリニックを受診したり、市役所へ相談に行ったり、相談事業所等の福祉サービス施設に相談に来たりというような形で、自分からアクションを起こしてやっとながるといふところがあると思う。対象が学生や障害児等の層であり、おそらく学校を通じることで網羅しやすいとは思いますが、私の勝手な希望で恐縮だが、そこを超えて、今潜んでいる方々に向けても間口が広がれば嬉しいと思う。

◇提案団体

- ・市内に障がいのある子供たちがどれだけいるのか確認したことはあるが、実際の数字はわからないということだった。おそらく市内に40校ほど小学校があり、各校に特別支援級が20人とすると、それで800人。芦屋特別支援学校と武庫川特別支援学校で合わせておそらく約400人いるため、市内の約1,200人が対象と考えると、参加者が100~200人程度であることから、まだまだ大きく広げなくてはいけない。おっしゃる通り、どこかで受診したり、就職したりというのは、それぞれ個人のアプローチになるが、やはり両方からのつながりや、経験談自体がつながっていくことが大事と思っている。また、この活動を長く続けることが大事だと思っており、私の子供は小学4年生だが、今後10年続ければ、私たちも10年後の人たちに経験をしっかりと話すことができる。ということは、今、私たちは進路選びについて中心に話しているが、10年後には、私はきっと就職についてもっと話すことができる親の立場としても参加できると考えているため、やはり長く続けることが大事だという意味で、まだまだ到達度は低いと思っている。

○委員

- ・「障がいのある子」の範囲は決まっているのか。

◇提案団体

- ・ 範囲は、基本的には知的障害の方が中心になっている。イメージとしては、地域の小学校の特別支援級に通う子と、芦屋特別支援学校や武庫川特別支援学校に通う子で、参加者については、小学校くらいまではどちらかという重度の子が多い。というのも、軽度の子は地域の普通級に通われている方もおり、高校になると、軽度の方が多くなるため、グラデーショナル的には、子供が小さいほど重度の子が多く、上にあがっていくほど軽度の方も増えてくるというようなイメージで、総数とするとそのような形になる。

○委員

- ・ 先ほど、昨年度までは学校行事等がなくなっていたが、今年度から再開されるという話があった。今年以降の活動として、学校の活動が再開するという前提で、お互いの役割や、どのように補完していくのかについて、去年までと内容を変える部分はあるか。

◇提案団体

- ・ 昨年度も、実際に講座を開くにあたり、特別支援学校の進路指導部の先生にお話を伺いに行ったり、大変快く受け入れていただいた。また、そこで聞いた Q&A が講座の中で一番評判がよかった。学校でも、この3年間でできなかったことを今後増やしていきたいと言われていた。一方で、人員不足ということもあり、このような活動と一緒につなげてもらえると嬉しいというお話をさせていただいた。役割分担までお話ししていないが、何らか連携し、学校側ができないことを私たちがするなど、総合的なところができればと考えている。

○会長

- ・ 結果は後日、事務局からお伝えする。

8 番目の事業「脱ワゴンオペ育児 in 西宮～地域で支える子育て～vol.2」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人 a little）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・ 「頼れる人が2人」との記載があるが、その理由はどこにあるのか。

◇提案団体

- ・ 「半径 1.5 キロメートルの間に気軽に相談できる相手が何人いるか」というアンケート項目に対する回答である。半径 1.5 キロというのはベビーカーで歩いて移動できる範囲で、15 分～20 分程度の距離を指す。

○委員

- ・ この活動の対象は何歳児までを想定されているのか。

◇提案団体

- ・ 妊娠中から産後3歳くらいまで。3年くらいまでというのも、在家庭から地域の何かとつながるところまでを一番中心にターゲットとして挙げているが、皆さん成長していくので、もう少し広い範囲、小学生くらいまでの方に読んでいただけるように考えている。

○委員

- ・ では、幼稚園や保育所に通っている子供は、ある意味対象外になるのか。

◇提案団体

- ・いえ、もちろん対象となる。どこかにつながっていたとしても、もっと視野を広げて、西宮のまち全体につながっていくことができるように、この情報誌を活用してほしい。今は限られた予算の中で、発行部数も限られているが、これから広げていけるようであれば、幼稚園や保育所にも配ることができるよう成長したい。

○委員

- ・幼稚園や保育所と提案団体の違い、あるいはお互いに補い合っているところは、どのようなところだと考えているか。

◇提案団体

- ・ある地域資源と地域資源をつなげ合う役割、ブリッジの役割が私たちの特徴だと思っている。

○委員

- ・昨年度、創刊号を作成され、今年は第2号、第3号を作るとのことで、企画段階だと思うが、現時点で創刊号と異なるテーマはどのようなものを考えているか。

◇提案団体

- ・次号について、この助成金を取れば一番いい形で発行できるとは思っているが、もし取れなくても発行すると決めており、9月発行に向け、先日ミーティングを行った。前回は「産前産後のこころとからだ」を特集としたが、今回は「パートナーシップ」を予定している。子育て支援の活動をする中で、100%の方に悩みがあるが、一番多いのが、やはりパートナーシップの悩みであり、夫と協力して子育てする、家事をするということをうまく話し合っ進めていくのがなかなか難しい土壌がある。特に、大切な家族だからこそ言えない、だけれどもやはり助け合いたい、そのような声もよく聞く。当団体には女性が多いため、男性の視点をたくさん取り入れられるように、今回はファザーリングジャパン関西に所属の、西宮市内で保育士として働いている男性と一緒に、この特集ページを組むことに決まっている。大きな違いはそこだが、それ以外にも、コロナが明けてイベントが増えていくことが予想されるため、イベント習い事ボックスというコーナーで、たくさん情報提供できるようになると考えている。

○委員

- ・今後も継続的に発行していくということか。

◇提案団体

- ・もちろん。西宮市の発行物にしていきたいと思っている。

○会長

- ・マガジンを発行して届けることは、ある意味、場合によれば一方向の情報提供になっていくと思う。これを補う形で、他の提案などでは、イベントを実施し、コミュニケーションができる場を設けるという話がある。昨年度は色々な講座等をされた中で、今回はマガジンに特化した意気込みや、マガジンを発行することにより双方向の情報のやり取りができるというような売りがあれば教えてほしい。

◇提案団体

- ・この情報誌は、市民の皆さんの声をもとに作成しており、作る時点ですでにコミュニケーションを取りながら作っている。「tomoni」というタイトルも投票で決定した。子育て家庭の方に応援してもらいながら作っている。
- ・他の子育て支援団体との交流をずっと続けているため、施設に配架するだけではなく、他団体の活

動の参加者にも届くよう配布する。また、アンケート調査を同時並行で実施するため、次号でほしい情報や困りごとの抽出にも役立つと思う。

○委員

- ・提案団体はこれまでヨガ教室等を開催されているが、今回は、自身が教室をして情報誌を配布するというより、すでに社会資源として色々な活動をしている団体を通して情報を届けることで、実際にそのユーザーにも発信してもらおう形を考えているのか。

◇提案団体

- ・その通り。私たちだけでできることは本当に少しで、「a little」という団体名もそのように思っただけだが、地域資源と地域資源、あるものとあるものをきちんとつなぎ合わせ直していく1年にしたい。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

9番目の事業「プレーパークで子育て親育ち（よちよちプレーパークと子育て相談）」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（にしのみや遊び場つくろう会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・今回もコロナ課題解決型で提案されている。資料を拝見すると、元々屋外で活動されているが、コロナの時期には入場制限等はされていなかったという理解でよろしいか。

◇提案団体

- ・児童館のように何人までという入場制限はできない。必要とされる親子や子供がいるため、コロナでもずっと活動は続けていた。入場制限については、はっきりと何人という形ではしていなかったが、様子を見ながら配慮はしていた。

○委員

- ・お伺いしたいのは、コロナが一段落したときに課題解決につながっているのかということ。おっしゃるとおり、コロナによって外出がしづらい環境が当然あったと思う。また、コロナによって様々な影響が出ており、大きな影響を受けたところと、そうではないところ、色々ある。このよちよちプレーパークが、コロナ課題解決型として提案をされている一番の理由は何かということをお聞きしたい。

◇提案団体

- ・一番の理由は、テーマ設定型は1事業しか採択されない一方で、このコロナ課題解決型は複数の事業が採択されるため、確率が高いから。
- ・公民館等でも利用制限は解除されたが、本当に子供にとっては解決しているわけではないと思うため、この区分で申請した。

○委員

- ・プレーリーダーへの謝金は5千円とされており、そのプレーリーダーの役割は、のびのびと遊ぶことを保証できるスキルと記載されている。活動時間は月2回、4時間程度ということで、申し訳ないが、5千円という設定金額が少し高いのではないかというのが私の発想。この金額がどこから出

てきたのかというのが素朴な疑問だった。

◇提案団体

- ・5千円が高いと言われれば、少し値下げをしないといけないかもしれない。プレーリーダーの考え方について、例えば、子供がすべり台に勝手に登っていったときに、近寄って手を差しのべるか、その子がすることを待つか、その頃合をどうするかを、プレーリーダーと呼ばれる人は、体験的に、また、研修も受けているため知っている。それを止めるか止めないかは、その子の育ちにどう影響するかだと思う。5千円が高いと言われるのであれば、私はどうしたものかと思う。おっしゃるように、プレーリーダーの時給は、全国のどこかで決まっているのかはわからない。ただ、他のプレーパークや放課後子供教室等を基本にしている。

○委員

- ・この助成金を受ける前から色々な活動をされてきたと思う。継続性の話にもなるが、それまでどのようにして資金を確保されていたのか。

○委員

- ・よちよちプレーパークをこの助成金を活用して実施されている。今までは、年齢の高い子を対象にされていた。

◇提案団体

- ・国有地を県が契約してくれているため、私たちはこの屋外の場所を無償で借りることができており、子どもたちが外遊びをすることができている。他の公園とは違うところがたくさんあり、違うことでどのような育ちがあるかは、配布したパンフレットに記載のとおり。よちよちプレーパークという名称は、24年前に団体が発足したときから、乳幼児、特に幼児たちの育ちを保障していきたいということで、私たちが考えて最初から使っていたが、乳幼児だけに特化せず、色んな子供たちが、大人たちも含めて参加してほしいということで、途中から使うのをやめていた。しかし、コロナ禍になり、特に乳幼児期の子供の保護者が、なかなかおしゃべりもできない、自分の子供をどうすればいいかわからない状況になっていたため、よちよちプレーパークという名称をまた使い、新たにこの協働事業に申請した。乳幼児の育ちに絶対に必要だと考えているため進めたいが、なかなか難しいところもある。だからこそ、この協働事業に手を挙げ、コロナの影響もあるだろうということで、1年だけではなく継続していきたい。

○委員

- ・先ほど、公園で遊ぶのとは違うというお話があった。手厚いサービスをされているのであれば、参加者から料金を取るという考え方は難しいのか。

◇提案団体

- ・もちろん考え方によっては、サービスをするならお金を取って当然だろうというのはわかる。でも、サービスとは考えていない。育ちにとって必要ということもわかってほしい。お金を取ることは、考えていない。ただ、全国に色々なところがあり、お金ではないが、保険代という形で取っているところもあると思う。
- ・公園とは違う環境で、今の保護者に、子供の育ちに対する考え方や外遊びの必要性を伝えていくためにはプレーリーダーのような人が必要だが、対価は取らず、他の方法で補いたい。

○副会長

- ・助産師や臨床心理士は開催中常駐しているのか。

◇提案団体

- ・地域の助産師で、もう何年も前からこの子育て相談をしており、決まった人に来てもらっている。薬剤師も決まっている。毎月1回継続して来てくれる。昨年度は、どちらの相談にも発達障害に関する事が多かった。以前来てもらった臨床心理士さんにも打診している。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

〈第2部 審査〉非公開

以 上